

キーワード

3思考力・判断力・表現力等の育成

標 題

言語活動をとおして、自分の思いを伝え合う子どもの育成

①学校の概要 (平成25年5月1日現在)

・児童生徒数 86名 ・学級数 7学級 ・教職員数 13名

②取組を始めた経緯

本校は国語科の研究に取り組んで4年目になる。初年度は、子どもたちの実態から「自分の思いをもち、言葉で伝えることのできる児童の育成をめざして」というテーマを設定し、国語科を通して研究を進めることにした。①ねらいがわかる授業づくり②「話す」「聞く」の学習規律の確立③思いを持たせる場面の設定④基礎学力の定着を重点的な取り組みとして研究を進めた。反省では、表現できるようになってはきたが、伝え合うところまでは至っていないという課題が残った。2年目には、「言語活動をとおして、自分の思いを伝え合う子どもの育成をめざす」というテーマを設定して取り組んだ。本校児童の強みと弱みを分析し、低・中・高学年別に、自分の思いを伝え合っている子どもの姿(めざす子ども像)を設定し、その姿に近づくには今の子どもたちにどんな力をつけなければならぬか、どんな手だてが必要かということを通理理解し、指導の重点とした。また、「話す」「聞く」習慣を徹底させたり、基本的な話し方・語彙を身に付けさせたりするとともに、伝え合う場面を意図的に設定するようにした。反省として基本的な話し方・語彙や話を聞く習慣が身についてきた。しかし、自分の考えを説明したり、友だちの意見を受けて発言を繋いでいくことはまだ難しい。伝え合うことに個人差があることや、音声だけでは伝えた内容が残らないという課題も出てきた。そこで、3年目には、「話すこと・聞くこと」に加えて「書くこと」にも重点をおくことにした。伝える前に自分の思いを「書く」活動を取り入れた。「書く」ことで内容が残るだけでなく、自分の考えを確認したり再構成したり深めたりすることができる考えたからである。そこで、昨年度は、伝え合う為の手だてとして、書く力を育て、書くことを通して考えをもったり整理したりできるようにした。また、子どもが思いを伝え合いたくなるような言語活動を設定した単元構成や、単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくりについても研修を行い授業を行った。そして、様々な教育活動の中で、異学年交流等思いを伝え合う場面を設定し、子どもが自分の思いを伝えたり聞いたりしたくなるようにしなしたりもした。

③取組の実施体制

○校内研修(水曜日)
・高学年部、低学年部による研修
・授業公開(全員1回)
指導案検討・研究協議は、全員で行う
・外部講師招聘による研修
県教育センターサポートキャラバン依頼
大学から講師招聘
○平成24年度鏡野町学校力向上実践校指定事業による授業研究会
(授業改革協力員授業公開)
・公開授業 11月21日(水)第4学年
国語科「お気に入りの本の発表会をしよう」

④学力向上に向けた具体的な取組

・授業改善・・・めあてとまとめのある授業、一人学び二人学び交流 読み・書き・計算の重点化
特別支援教育の視点を生かした授業づくり
・テーマにせまる為に書く活動の充実
書く活動・・・授業の中でノート指導(日付・めあて・自分の考え・まとめ)の充実と学年共通化
学年相応の連絡帳指定と書き方指導
スピーチメモを書く等
・4つのしっかり(しっかり聞く しっかり話す しっかり読む しっかり書く)を学習場面だけでなく、他の活動でも意識化
・聞き方あいうえおの掲示・・・あい手を見て聞く いっしょうけんめい聞く うなずきながら聞く えがおで聞く おしまいで聞く
・朝学習の習慣化と定着・・・毎週(8:15~8:30)月・木曜日は読書、水・金曜日はスキル学習
・読書活動の奨励・・・各学年で目標冊数を決めて読書に組む。毎週1回は学級ごとに図書室へ行き、本を借りる(身の回りに本のある環境づくり)
・家庭学習の習慣化・・・家庭学習のしおり(全校用・各学年用)作成配布、帰宅してからの生活の流れ(低学年用)作成配布予定
学級懇談で保護者に説明・協力依頼
・生活指導について・・・3つのあ(あいさつ あつまり あとかたづけ)の徹底で落ち着いた環境づくり
・学校集団・学級集団づくり・・・縦割り班活動や体験活動をとおして、思いやりの心を育てるとともに高学年児童に上級生として自覚をもたせる
・体験活動の充実・・・里山での体験活動・地域連携による体験活動等
・中学校区の取り組み・・・学びの環境づくり(中学校の試験期間に合わせてノーメディアの実践)
標語作成「進んであいさつ 進んで学習 未来に羽ばたく鏡野っ子を育てよう」をポスターにして、各家庭・公民館に掲示

⑤取組の成果と課題

○書く活動については、各学年の発達段階や実態に合わせて意図的な取組を行い、実践交流を行ったので、他学年の様子がわかり参考になった。継続的な取組により、児童が書く活動に積極的主体的に取り組むようになり、書く力も身につけてきた。
 ○書くことで、自分の考えがもてるようになり、伝えることができるようになった。自分の考えを堂々と発言する子や自分の考えと比較して聞けるようになった子もいる。
 ○「おすすめの本50冊」「おすすめの本紹介カード」「読書目標冊数の決定」等読書活動の推進で、読書への意欲や関心が高まり、読書量が多くなった。
 ○思いを伝えることはよくできるようになったが、伝え合うところはまだ十分とは言えない。

⑥取組の継続・発展の要因

○今年度が、国語科の研究に取り組んで4年目になる。昨年度伝え合うところはまだ十分ではないので、思いを伝える場を意図的に増やしていく。
 ○授業の中では、考えを持たせて、2人組→グループ→全体での話し合いの場を設定し、しっかりと聴き合えるようにする。
 ○ノート指導に取り組んである程度成果があった。今年度は、学年ごとにノートの罫の目安を決定し、使い方の共通理解も図る。
 ○子どもたちが自ら考え、伝え合いたくなるような学習課題作りを工夫する。
 ○それぞれの学級に支援を要する児童が在籍している。特別支援教育の視点を生かした授業づくりをすることで、全員によくわかる授業作りをしていく。
 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の取組や成果を、今後も大切に継続することで、子どもたちに思考力・判断力・表現力を身に付けさせ、学力向上へとつなげていきたい。

⑦管理職・中核教員等のアクション

○管理職は、学校経営目標に「確かな学力を育てる学校づくり」を掲げ、具体的な計画として、各教科・領域で4つのしっかり「しっかり聞く しっかり話す しっかり読む しっかり書く」に取り組む、表現力を伸ばすこと、ノート指導を大切に、基礎的・基本的な知識・技能を習得させること、家庭学習・読書の習慣化を図り学ぶ意欲を育てること、特別支援教育・校内研修の推進を図り、わかる授業作りに努めることをとりあげ、学校全体で学力の向上に向けて取り組むことを推進する。
 ○中核教員は、学校経営目標を受けて、校内研修が広がり深まるように、資料提示や発言を行うことができた。また、授業改革協力員の任も受けていたので、自らが公開授業の授業者となり、国語科の「単元を貫く言語活動」を取り入れて単元構成をし、子どもたちが主体的に表現活動をする授業を公開することができた。

⑧資料・写真等

